

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	岩手県	事業実施主体	岩手県、陸前高田市	地域再生計画名	気仙地域の地域資源利用による震災復興に向けた地域再生計画
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	岩手県農林水産部森林保全課総括課長、陸前高田市建設部建設課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数		達成数			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	林業新規就業者数の増加	—	—	8人	H30	5人	15人	R2	8人	×	3	1	近年の高性能林業機械の導入等に伴う一人当たりの労働生産性の上昇等もあり、新規就業者の増加が想定より少なかったものと考えられるが、地方創生推進交付金事業（いわての次世代林業・木材産業育成プロジェクト事業）における林業人材の確保・育成に関する取組との相乗効果により、計画期間を通じて新規就業者は着実に増加した。
	指標2	素材生産量の増加	41,000m ³ /年	H24～H26平均	43,000m ³ /年	H30	49,774m ³ /年	45,000m ³ /年	R2	63,308m ³ /年	○	3	1	目標値を達成している。
	指標3	観光入込客数の増加	400,000人/年	H26	600,000人/年	H30	483,429人/年	1,000,000人/年	R2	819,572人/年	×	3	1	指標としている市内全体の観光入込客数は増加傾向にあったものの、最終実績は新型コロナの影響もあり目標値を下回った。なお、当事業で整備した市道沿線にある気仙大工左官伝承館の来場者数は、基準年の平成26年度から令和元年度まで年間1万人以上の来場者数を確保していたが、令和2年度は、新型コロナによる閉館期間等の影響もあり年間4千人まで落ち込んだ。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1													
指標2														
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
特別措置を適用して行う事業	林道整備事業（整備延長）		計画	中間年度（R1）	最終実績	地域再生計画に掲載している4路線のうち、雪沢・松の倉沢線が令和元年度に完成した。残る3路線の整備実績は、大松沢線が入札不調の発生により53%、鎌峯沢線は入札不調や施工条件の変化に伴う追加用地の確保が必要となったため83%となり、平根山線が台風災害による工事の遅延や入札不調の発生等により42%となった。整備した林道は順次供用開始しており、素材生産量の増加や間伐等の森林整備の促進に寄与したと考えている。								
	市道整備事業（整備延長）		1.2km	0.5km	1.1km	事業は予定どおり令和2年度に完了した。狭あいな幅員を改良することで、森林で生産される木材をトレーラー等の大型車で効率的に市内外の木材加工施設に輸送することが可能となり、森林資源の有効利用が図られた。市道の沿線に整備されている「杉の家はこね」、「気仙大工左官伝承館」への観光客の利便性向上が図られた。								
その他の事業	いわての次世代林業・木材産業育成プロジェクト事業		林業に関する知識・技術を体系的に習得する長期研修の施設整備や運営、木材の販路拡大に向けた技術力向上研修などの実施			地方創生推進交付金の活用により、平成29年度に林業人材を育成する「林業アカデミー」を開講し、令和2年度までに修了した64名全員が林業事業者等に就職した（うち陸前高田市への林業新規就業者は2人）。								
	高田地区海岸災害復旧事業		防潮堤の再整備（L=1,872m） 防潮林の再生（A=12ha）			東日本大震災津波により市街地が壊滅的な被害を受けたため、県が防潮堤等を整備した。また、白砂と松が美しい景勝地として知られていた「高田松原」の松林（防潮林）の復旧を図るために県が実施している植栽工が令和2年度に完了した。								
	林業体験事業		「立教の森」の整備を通じて、大学生や地域住民との協働による森林整備を実施			陸前高田市生出地区に、都市農村交流拠点として「立教の森」を整備し、立教大学の学生や地域住民との協働による森林整備を行っている。（学生の参加者数 H28…7名 H29…中止（台風のため） H30…5名 R1…17名 R2…中止（新型コロナのため））								
	木材利用促進イベントの開催		「気仙すぎ祭」の開催			市民等に木材に関するPRを行うことにより、木材の利用促進を図るとともに、森林資源の魅力を発信するため、昭和63年からイベントを継続して開催している。								
	観光イベントの開催		「ツール・ド・三陸」の開催			観光振興等を図るため、市内の道路（国県道、市道、林道）を活用した一般市民参加型のサイクリングイベントとして、平成24年から開催している。								
	定住の促進（中心市街地整備事業）		被災した市街地の復興となりわいの再生			東日本大震災津波により被災した中心市街地の復興を図るため、大型商業施設や市立図書館等を整備するとともに、まちなか広場周辺で産業まつりを開催すること等により、魅力的で安心して暮らせる市街地環境を整備している。								
	定住の促進（持続可能な共生林業の推進）		移住者の受入れや定住の促進			林業従事者の高齢化による減少を抑制するため、林業をなりわいとする都市部等からの移住者を地域おこし協力隊として受け入れるとともに、市が林業研修等を開催することなどにより、移住者の定住促進を図っている。（地域おこし協力隊の受入数 H28…1名 H29…4名 H30…7名 R1…5名 R2…4名）								
計画外で独自に実施した事業														
④評価方法	学識経験者2名から意見を聴取した上で評価・検討等を行った。													
⑤事後評価の公表方法	岩手県及び陸前高田市のホームページに掲載。													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、市道と林道を一体的に整備し、主要幹線となる国道・三陸沿岸道路や、その支線となる市道・林道を含む道路ネットワークの整備により、物流・生産コストの縮減や森林資源の積極的な利用を図り、林業における雇用の創出や地域住民の居住環境の改善、所得の向上、地域の活性化・再生を目指すこととしている。 指標1の林業新規就業者数及び指標3の観光入込客数については、基準年より増加傾向にあるものの、目標値には到達しなかったが、道路網の整備を進めることで森林施業の効率化と木材生産コストの低減を図り、木材生産性の向上が図られた。													
⑦今後の方針等	今後とも、市道、林道の連携による道路ネットワークの整備を通じた森林資源の積極的な利用、地域の活性化・再生に向け、取り組んでいきたいと考えている。													